

1. 評価結果概要表

作成日 21 年 5 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870200126
法人名	有限会社 みつばちホーム
事業所名	グループホームみつばち
所在地	敦賀市長谷44号16番地 (電話) 0770-20-0038

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年5月14日

【情報提供票より】 ( 21 年 2 月 5 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人、非常勤 6 人、常勤換算 4.3 人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4)利用者の概要 ( 2 月 5 日 現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 88 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木村病院 長村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敦賀市の南部、里山の風景が四季折々の姿を見せる自然に囲まれた集落の中に当ホームがある。民家を改造した建物は、一見するとグループホームとは分ならず、地域に溶け込んでいる。近隣から生活の音が聞こえてきたり、取れた旬の野菜を届けてくれるなど家庭的な雰囲気にあふれている。実施主体である有限会社は、この地域でグループホームを2か所運営しており、いずれも1ユニットの民家型で馴染みの環境とぬくもりのある空間づくりを大切にしている。また、終の住処として、終末期についても本人や家族の意向に応え、安心してその最期を迎えられるように、職員に看取りに関する研修を積極的に行い、実際に、病院の退院時から入居者の最期を看取った事例等もヒアリングから確認できた。職員は日頃から入居者一人ひとりに声かけしながら個別の関わりを持ち、気を配った支援をしている。また、家族のように共に過ごす中で職員も入居者から学んだり支えあう関係ができていく。夜間は1階に夜勤職員を、2階に宿直を置く人員体制で、入居者の安心・安全につなげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受けて、管理者と職員が話し合い、課題改善に取り組んでいる。また、運営推進会議にも評価結果を報告し、玄関にも置いて誰もが見られるようにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と職員が話し合って行っている。自己評価を通じて、反省を含め日頃の支援の仕方や大切さを改めて振り返ることのできる良い機会だと感じていることが、管理者と職員のヒアリングから確認できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は2か月に1回開催され、構成メンバーは家族代表と地区の区長、民生委員、市の地域包括支援センター職員等で行っている。会議では入居者の状況や行事等を報告し、市からはアドバイスを受けている。今後、構成メンバーに入居者や地区の老人会や婦人会等に参加を呼びかけ、事業所として地域に関わり、地域に貢献していく上で運営に関する意見を反映させていくことを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者ごとに担当職員を決め、毎月請求書と一緒に利用者の様子や写真を同封して報告している。また、面会時にも報告や話し合いを行っている。玄関に意見箱も設置しているが、苦情や意見は出ていない。家族会もあるが、事業所の行事への参加を呼びかけることのみで、意見や苦情を吸い上げるまでには至っていないので、家族同士の意見交換や要望の集約の機会となるような家族会の開催を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の人々が気軽に訪れて、野菜を差し入れてくれたり、また、出かけていってイチゴ狩りをさせてもらったりする関係ができていくが、自治会や老人会等の行事に参加しての交流までには至っていない。今後は、地域の行事や活動等に参加したり、火災や緊急時の応援や協力が得られるような地域への働きかけが望まれる。

## 2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営</b>			
		<b>1 理念の共有</b>			
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「奉仕の心でつなぐ至福の和」という法人の理念のもと、ホーム独自では「手になるう」という理念を掲げている。理念には、地域の中での人の和と地域の中での支え合いという「地域」を意識した意味も込められている。また、誰もが分かるようにホーム内に大きく掲示してある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの際に理念について話し合い、職員は入居者に寄り添う手、支える手となるように実践に努めていることがヒアリングから確認できた。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の人々が気軽に訪れて、野菜を差し入れてくれたり、また、出かけていってイチゴ狩りをさせてもらったりする関係ができていて、自治会や老人会等の行事に参加しての交流までには至っていない。		今後は、地域の行事や活動等に参加したり、火災や緊急時の応援や協力が得られるような地域への働きかけが望まれる。
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じて、反省を含め日頃の支援の仕方や大切さを改めて振り返ることのできる良い機会だと感じていることが、管理者と職員のヒアリングから確認できた。また、運営推進会議にも評価結果を報告し、玄関にも置いて誰もがみられるようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、構成メンバーは家族代表と地区の区長、民生委員、市の地域包括支援センター職員等で行っている。会議では入居者の状況や行事等を報告し、市からはアドバイスを受けている。		構成メンバーに入居者や地区の老人会や婦人会等に参加を呼びかけ、事業所として地域に関わり、地域に貢献していく上で運営に関する意見を反映させていくことを期待したい。
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課とその都度報告や質問を気軽にできる関係にあり、運営推進会議には地域包括支援センターの職員も参加している。		
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごとの担当職員が、毎月請求書と一緒に利用者の様子や写真を同封して報告している。また、面会時にも報告や話し合いを行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、苦情や意見は出ていない。家族会もあるが、事業所の行事への参加を呼びかけることのみで、意見や苦情を吸い上げるまでには至っていない。		家族同士の意見交換や要望の集約の機会となるような家族会の開催を期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は異動はなく、今後も2か所あるグループホーム間での異動があっても、日頃からグループホーム同士の交流で顔なじみの関係ができており、入居者への影響軽減につながっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修等の外部研修にも積極的に参加しており、研修参加後には報告書も提出して、職員間での共有につなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に管理者が参加し、同業者との情報交換を行っている。		同じ法人内の別のグループホームはもちろん、近隣市町の他法人が実施するグループホームとも職員間の交流を図り、相互のサービスの質の向上、人材育成につなげる取り組みを期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅に訪問したり、見学や一日体験を通じて信頼関係を持ち、徐々に馴染めるように支援している。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日頃から、入居者一人ひとりに声かけしながら個別の関わりを持ち、気を配った支援をしている。家族のように共に過ごす中で職員も入居者から学んだり支えあう関係ができています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が入居者と密な関係を持って、本人の意向を把握し、定期的なカンファレンスを行って職員間での情報の共有に努めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	包括的自立支援プログラムのケアチェック票を使い、日常生活や健康状態・心理的な問題点や解決すべき課題を挙げ、一人ひとりの介護計画の作成に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な介護計画の見直しは6か月ごとに行っているが、月1回スタッフのカンファレンスで利用者の状況変化を把握し、家族を交えて適時見直しを行っている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があればそれに対応する体制があり、希望の美容院等への外出支援も行っている。看護体制を充実させ、退院直後からの支援や看取りにも取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院から週1回の往診を受けている。かかりつけ医への受診には、協力医院の診断書を持って家族が付き添うことを基本としているが、行けない場合等必要に応じて職員が付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	この1年で入居者2名の看取りを行っている。職員に看護師があり、看護体制も充実しているが、職員が交代で入居者の手を握り心を込めて安らかな最期を見とどけたことなど、看取りに対する職員全員の意識が高いことがうかがえる。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護に関する声かけマニュアルがあり、職員全員がプライバシーに配慮した声かけを心がけている。職員と話している利用者の表情からも、一人ひとりが尊重されている様子がうかがえた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、無理強いせずその人のペースに合わせた支援をしている。		
		<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は全て陶器で茶碗と湯のみと箸は個人の馴染みの物を使っている。職員も一緒に和やかな雰囲気ですべて取っている。利用者はできる範囲内で調理の手伝いや後片付けに参加している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般的な家庭風呂であるが、浴室は十分な広さが確保されている。入浴は週2回を基本として、決められた曜日に入浴できない場合には清拭や入浴日を変更して対応している。		
		<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗を洗ったり、洗濯たたみ等を入居者は自分の仕事のように思っている。また、男性の入居者が入居者同士や入居者と職員の橋渡しをしてくれており、互いの意思疎通に一役買っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日等、日常的に散歩に出かけている。その他にも買い物に出かけたり、季節の果物や野菜採りに出かけている。		
		<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放されている。居室にも鍵はかかっていない。タバコを吸う入居者も自由に外に出ることができる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難緊急マニュアルや緊急連絡網が掲示されている。年に1回の避難訓練を実施しているが、職員の手薄な夜間を想定した訓練や2階からの入居者の避難訓練はまだ実施されていない。		職員の手薄な夜間を想定して、2階からの避難訓練や地域の住民や消防団を交えた訓練を実施することを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取はチェックされている。午前と午後に入居者が好む飲み物で水分を提供している。近所からもらう旬の野菜を豊富に使った献立で、好き嫌いにも配慮している。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型で玄関や屋内も馴染みのある空間となっている。入居者が普段過ごす1階の食堂兼居間には、壁に季節の飾りがあったり、入居者が腰掛けることができる量の場所が用意されている。2階に上がる階段には昇降機が取り付けられ、階段を上りきった場所には安全のために、夜間は扉で閉められるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が1階と2階とに分かれているが、一般的に居室は家庭からの持ち込み物が少ない。また、2階のトイレが使えないようになっており、そのため各居室には夜間用としてポータブルトイレが置かれている。		普段は1階の居間で過ごす時間が長いとはいえ、各居室が入居者にとって落ち着く場所となるように自作品等を置いて空間づくりに配慮すると共に、ポータブルトイレについても部屋に合わせてカバーを掛けるなどの目立たない工夫を望みたい。

## 自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念「奉仕の心でつなぐ至福の和」 グループホームの理念「手になるう」	○	「和」の中には、地域に溶け込んだ「人の和」という意味を含めている。「手」には、支えあう手、支援の手という意味がある。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員が目につく所に貼り、いつでも確認できるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入所時に伝え、運営推進会議や家族会などで話し合っている。		
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所で採れた野菜などを持ってきていただいたり、ミニ動物園やいちご狩りなど声をかけていただいている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年より行事やふれあいサロンなどに参加する予定。	○	回覧版は回ってこないが、近所の方に、月 日に何があると教えていただくようになった。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会で、社会奉仕などの参加が出来るように話している。	○	利用者さん達に声かけしても、「えらいからいや」とか「寒いからいや」「暑いからいや」と、断れることが多い。
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については理解している。自己評価にあたっては、日頃の業務を見直すいい機会だと思っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月毎に行う運営推進会議では、利用者の状況、ホームの行事などの報告は随時行っている。サービス向上につながる意見などは出ない。	○	利用者の症状が重度化した時の施設間の連携

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	細かい事の報告や、質問等は気軽に出来る関係である。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中で一名該当者あり、制度の内容を説明した。	○	希望者に関しては、研修を受講する予定。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して学んだことに関して職員間で話し、ホーム内で虐待が発生しないように努めている。		
<b>4 理念を実践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見や希望を訴えた場合は、即実行するように努めている。内容が家族に向けられていれば、家族に相談する。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	一ヶ月に一回お手紙で報告したり、面会に来られた時に報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の第三評価でのアンケートを参考に、不満があるのを確認できた。玄関に意見箱を設置しているが、投稿はない。	○	家族代表に、家族会の時に不満や意見などを話題にさせていただきうお願いした。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時間を利用し聞いている。反映できるものは反映している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ配慮している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会を利用し、可能な限り参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設けて、情報交換はしているが、勉強会までには至っていない。	○	それぞれの事業所は忙しく、時間が取れないように思っていた。今後、近くにGHができるので、交流の機会や勉強会が出来ると思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表は殆ど希望どおりしている。個々に、いつでも話を聞く機会を設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持って働けるよう、定期的に勉強会を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまで機関が短く、信頼関係を築くことは困難である。入所されてから、信頼関係を築くよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	気軽に相談できるような関係を築けるよう努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を見ながら、サービス向上に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気慣れるまで、職員が付き添い係わる中で、安心感を得られるようにする。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	24時間生活する中で、喜怒哀楽を共にし、学ぶことも多いが、認知症が進む中で、昔出来ていたことが出来なくなっている事が多く、一方的な介護で終わっている利用者もいる。		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が情緒不安定な場合は、家族のご協力を得て、共に本人を支えていく関係が出来ている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	身寄りが少なく面会者もない利用者の方に関しては、親族に面会を求めたり要望を伝えることが難しい。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望であれば、関係が続くよう支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立している利用者には、職員が中に入り自然に利用者の輪に入れるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特別行っていないが、以前よりホームで亡くなった方や利用して亡くなられた方の家族には、一年に一回程度尋ねている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的カンファレンスを行い情報の共有を行っている。担当者が密に関係を持つようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前はセンター方式を利用していたが、職員の要望により中止する。現在は当初に戻している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所より一ヵ月ぐらいは、スタッフ全員の目で見えて状態や様子から家族と話し合っ進めている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じて医師や家族を交えて介護計画に反映している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回スタッフで見直しをし、状態変化があれば、その都度家族を交えて相談し作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報は常に共有するように、朝の申し送りで確認している。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望があれば、その都度応じている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向があれば応じる。避難訓練は、消防署の方にお願しい協力してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要性があれば対応するが、現在は行っていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があれば対応するが、現在は行っていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院より週一回往診してもらっている。かかりつけ医の定期検診については、ホームでの記入したものを渡し、家族にお願いするか職員が代行する。その場合は家族に報告している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症については精神科の専門医を受診し、定期的に行う状態の確認やケアについての助言をもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	運営者が看護師であり、健康管理や医療活用に関し十分話し合いがなされている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携は取れているが、2週間を越える入院があれば退所となる。	○	入院時点で明らかに2週間を超える入院となる場合は、家族と相談の上退所とするが、出来るだけ家族の意向を尊重し、早期退院が出来るよう情報交換に努めている。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末期に関しては、家族の意向を重視して、再三にわたり確認している。(看取り利用者 過去4人)		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	家族の希望する終末期に対する意向を重視して、ホームで出来ること出来ないことを理解してもらい、その上で支援している。		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	個人差はあるが、大体2週間位は落ち着かないので、家族や職員間で情報交換している。		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりのプライバシーを損ねるような言葉かけはせず、スタッフ間で統一した声掛けが出来るよう配慮している。		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	利用者の思いや希望を表わされる人には、そのように支援している。決定の出来ない人に関しては、出来るだけ本人の思いが把握できるよう努めている。		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	無理に取り組んでもらうことなく、利用者の状態を見て作業やレクに参加してもらっている。		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	全利用者ではないが、毎日の服装は自分で選んでいる。理美容に関しては、ホームで切るか、本人の希望するお店に行っている。		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	食事は一人ひとりの好みを入所時に確認し、嫌いなものに関しては、食べれるものを提供している。(生魚 煮魚)		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	現在日常的に晩酌される方は一人しかいないが、ホームで管理はしているものの毎日晩酌している。タバコはホーム内禁煙としているため、屋外の所定の場所で吸ってもらっている		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ対応の方でも日中はトイレへ誘導している。自分でトイレへ行ける方でも失禁の恐れのある方には、それとなく声掛けし汚染の確認をさせてもらっている。自立の人の排便のチェックは難しい。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、週2回と曜日を決めて入浴している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人その人の思うように過ごしてもらっている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し働きかけても、加齢のためか、認知症のためか、意欲が軽減している人が多い。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望どおりにしているか、管理が難しい場合は家族と相談し対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日などを利用して個別に出かける。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族の了解を取って行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	民家改造型で普通の家なので、気軽に訪問できる雰囲気が出来ている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の中に拘束が必要と思われる場合は、職員間で十分協議し、拘束のないように努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は常に解放されている。居室には鍵がない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は物音がしない限り、居室には入らないようにしている。日中は、十分見守りを行っている。居室に入っている方は声掛けを行う。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁類は日中業務終了時に片付ける。ハサミ類は鉛筆ポールペン類と一緒に入れてあるが利用者が使用時は必ず見守っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態を把握し、徘徊など各症状により要注意者には出来るだけ目を離さないようにしている。実際にあった場合はヒヤリハットを利用する。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成してあるので仮定した話で口頭により確認し合っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年に一回訓練を行い、近隣には要請をお願いしてある。避難場所は職員が把握している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態に変化があれば家族に報告している。朝の申し送りで、職員間で十分話し合っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化の異変に気づいた際は、必要に応じて家族に連絡し、受診などして対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情によって副作用を確認して症状観察を行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレに鍵を掛けてはいる人には確認できないため、水分補給に牛乳やおやつ時に繊維のものを取るようにしている。+ 体操		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きや口腔洗浄に努めている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は表に記入して確認している。ご飯の量は一人ひとり秤で計っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	面会者に関しては、玄関で手の消毒、風邪気味の人にはマスク着用。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	温度湿度計を用いて常時確認している。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム自体が普通の民家であり、抵抗が感じられないように思う。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改修型で、施設間を感じず家にいるような雰囲気が出ていると感じる。壁などには季節感を感じてもらえるようにその季節の飾りを一緒に作成し飾っている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの端に設置してある畳に座って過ごしている。		
も	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	荷物の持ち込みは自由になっているが、入所時に家族側で処分されていることもありタンスなどの持ち込みはほとんどない。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温・質湿度計を用いて、二十度から二十四度ぐらいを保つようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段はリフトを使用、段差は解消されていると思う。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレまで行くのが困難と思われる利用者には、夜間のみポータブルトイレをベットの横に置き、混乱や事故を最小限にしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に小さな畑を作り、野菜を育てている。収穫したものが、食卓に並ぶなど楽しんでいる。花壇やプランターに季節に応じた花を植え世話をしている。		
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の利用者の2/3くらいの利用者の1/3くらいの利用者のほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が利用者の2/3くらいが利用者の1/3くらいがほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

民家改造型で見た目は古い家だが、介護は建物が新しくても古くても違いがなく、見た目で判断するような人には利用してほしくない。狭くても、古くても、小さくても住めば都。笑顔の絶えない明るく楽しい我が家であり、またターミナル時は看護師が二十四時間体制であり、終の住み家にはもってこいの場だと確信している。